


学会成果報告書

学会名	第 42 回日本高血圧学会総会		
大会長所属	獨協医科大学 腎臓・高血圧内科		
大会長氏名	石光 俊彦		
テーマ	未来を支える血圧管理		
開催日	2019年10月25日(金)～27日(日)	参加人数	2000 名
場所	京王プラザホテル		

学会サマリー：

学会全体として「未来を支える血圧管理」をテーマとし、来たる長寿高齢化社会において国民の身体的、社会的性を高め生産性および質の高い生活レベルを達成するために、長期にわたり健康を障害する脳心血管病および循環器系臓器不全の主要な危険因子である高血圧に対するより良い医療を達成するために様々な観点から最新の情報が発表され活発な意見交換が行われた。

3名の海外特別講演演者より基礎医学、臨床疫学の領域から食塩感受性のメカニズムおよび血圧変動と長期的予後の関連について包括的な情報が示された。また、1名の国内特別講演演者は医師会および行政の立場から脳卒中・循環器病対策としての高血圧管理の重要性が強調された。学会の中心となるオリジナルの研究発表としては選考の結果、基礎研究 71 題、臨床研究 126 題、疫学研究 54 題など計 310 題が採択され発表された。新しいガイドラインで強調されている生活習慣の改善やビッグデータの解析などに関する演題が関心を集め、活発な討論が行われた。

インターナショナルセッションでは中国、韓国、台湾など東アジアを中心とする海外からの 26 演題が発表され、高血圧に関する国際的な情報交換が行われた。また、日中韓合同企画では各国の高血圧学会理事長による学会活動の現況と課題が示され、将来的な協調に向け建設的な意見交換が行われた。特別企画として日本、アメリカ、ヨーロッパ、中国など主要なガイドラインの作成担当者による比較討論が行われ、世界的な視野で高血圧管理の向上を考える貴重な機会となった。

12 のシンポジウムと、7 つの他学会との合同企画が行われ、それらの中で、長期予後において重要な問題となる脳心腎連関や新しい話題として注目されている腸内細菌などに関するセッションが多角的かつ包括的な情報が得られる場として多くの参加者を集めた。新しい試みとしては、これらのセッションと並行して Digital Hypertension Conference と称して、高血圧医療の向上に向けてインターネット通信などを利用した telemedicine や AI (artificial intelligence) の可能性に関する発表や議論が行われ、ほぼ満席の活況となった。

加えて、将来的な学会活動および高血圧診療・研究の裾野を広げることを見据えて、若手研究者による基礎研究を奨励するセッションや女性研究者による優れた研究に対する表彰が行われた。また、最終日には高血圧の予防・改善のために血圧の測定と生活習慣の改善に関する市民公開講座が設けられ、新宿という地の利から約 450 名の参加があった。